

新型コロナウイルス (COVID-19) が世界中で猛威を振るう未曾有の非常事態となっている。クラスターの発生が各地で多発している状況を受け、安倍首相が記者会見で、全国の小中学校や高校、特別支援学校を対象に、3月2日から春休みに入るまでの臨時休校を要請したのは2月29日のことだった。3月20日には、その方針を延長しない方針が確認されたものの、その後も、世界的な感染拡大が止まらず、7月～8月に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックは、3月24日、1年間ほどの延期が正式に決定した。全土の封鎖が3月9日に決まったイタリアでは、「医療崩壊」の危機に瀕し、3月31日、封鎖の措置が4月12日まで延長されて現在に至っている。日本でも、3月末から感染者数がうなぎ登りに増加し、本稿執筆中の4月5日11時の時点で、国内の感染者数が3,271人、東京都では、1日(前日)の感染者数が118人と発表されるなど、都市圏においては「指数関数的増加」の兆候が見え始め、爆発的増加(オーバーシュート)の危機が迫っている。

天理大学では、クラスターの発生を避けるため、3月6日、卒業式の中止を決定し、学科・専攻・研究コース等に分かれた学位記授与を行うことを決定していたが、3月10日、対面での卒業証書・学位記授与も断念し、郵送で卒業生に送付することになった。また、3月13日、入学式の式典中止も決定され、3月30日には、新学期の授業開始が連休明けの5月7日と決定された。3月31日、4月1日に予定されていたオリエンテーションも、3週間延期となり、4月20日まで不要不急の学生の学内への入構が禁止された。前例のない非常事態を受けて、筆者の所属する歴史文化学科では、緊急に、自宅で待機している新入生・在学生に向けて教員からメッセージを届けることになり、その第一弾として、4月2日、戦国武将の三好長慶や松永久秀の研究で著名な天野忠幸准教授(歴史学研究コース)からのメッセージが大学のwebサイトに掲載された。戦国時代を研究する天野先生らしく、自宅に「籠城」中でも、日本史(中世=鎌倉・室町・戦国時代)を楽しめるよう、レポート作成や読書のアドバイスをを行っている。

新入生・在学生に対する教員メッセージの第二弾は、不肖、私からで、4月3日、大学のwebサイトに掲載された内容を、一部省略しながら紹介しておきたい。

「新入生のみなさんは、天理大学歴史文化学科へのご入学、誠におめでとうございます。せっかく大学生になれたのに、入学式も中止になり、授業開始も連休明けからになってしまいました。新学期を迎えたというのに、今年は何もかもがいつもと違って、学生のみなさんばかりでなく、私たち教員も大変戸惑っています。私の専門は考古学ですが、日本と外国の両方でフィールドワークに携わっています。世界共通の危機の今、海外の研究仲間や友人たちと、メールやSNSで互いに励まし合いながら、世界がつながっていることを実感しています。」

「新入生のみなさんには、春学期には、『考古学概論』の授業でお目にかかる予定になっています。教室でお会いできることを楽しみにしていますが、今は、授業に備えて、参考になるビデオを紹介しておきましょう。ご存じのように、天理大学には

附属天理参考館という素晴らしい大学博物館があり、自宅からでも参考館の収蔵資料の解説ビデオをYouTubeで見ることができま

す。天理参考館のHPに『参考館動画』というコーナーがあり、そこを入り口にして、さまざまなビデオを見ることができます。このビデオは天理大学・参考館ならではのオリジナル・コンテンツとなっていて、考古学を勉強しようと思うみなさんへのおすすめは、『発掘作業』(『天理参考館のこころ』11)です。もちろん、他にもたくさん、選りすぐりのビデオがあって、考古学や民俗学の学びのきっかけになってくれることと思います。」

「考古学・民俗学研究コースに所属になる2年生のみなさんには、今春は、『考古学・民俗学研究入門1』の授業でお会いします。(中略)。授業では、天理参考館の展示資料を、受講生のみなさんに選択してもらい、レジメを作成して、研究成果を発表してもらいます。(中略)。今のうちに、『参考館動画』にある『天理参考館この一品』(全39回)、『天理参考館のこころ』(全41回)を見て、どの資料を選ぼうかなあ、と考えておいてください。」「3年生のみなさんは、いよいよ、卒論に向けて、自分の専門テーマを絞り込んでゆかなければなりません。卒業後、『大学で何を勉強したのですか』と聞かれたときに、自信をもって、『私は考古学を勉強しました。卒論では〇〇を研究しました』と言えるようになってもらえたら、と思っています。」「4年生のみなさんも同じ事ですが、いよいよ、本格的な準備と作業が必要です。担当の先生と連絡を取って、課題を進めてもらえればと思います。」

これから公開される予定の小田木治太郎教授(考古学・民俗学研究コース)のメッセージでは、「戸外の空気も吸える勉強方法」として、奈良文化財研究所が運営する「遺跡データベース」を活用し、身近な遺跡の場所を調べて、現地に出かけてみることを勧めている。また、現地に行かなくても遺跡の様子を知れるwebサイトとして、天理大学の「西山古墳パノラマツアー」を紹介し、「このサイトで天理を懐かしんでください」と伝えている。このサイトは、googleで『西山古墳』と検索すればすぐ見つかるはずなので、関心のある方は、是非ご覧ください。最後に、もう一度、私のメッセージに戻っておこう。「天理大学は歴史文化、考古学・民俗学を学ぶには最高の環境です。」「近いうちに、教室でみなさんにお会いできることを楽しみにしています。今は、健康に気をつけながら、毎日を過ごしましょう。」

人類としてのこの危機を、皆が知恵を出し、乗り切り、危機が去ったあとには、『サピエンス全史』で知られるユヴァル・ハラリ氏が訴えるように(『日本経済新聞』コラム記事、3月30日)、「全体主義的な監視」「国家主義的な孤立」といった世界ではなく、「市民の権限強化」「世界の結束」の希望ある世界が実現することを切に願いたい。



「参考館動画」
(天理大学附属天理参考館のwebサイトから)